

『水俣病犠牲者慰霊式』に参列して

5月1日、「エコパーク水俣親水緑地」で執り行われた『水俣病犠牲者慰霊式』に、県議会経済環境常任委員長として参列しました。今年で水俣病の公式確認から69年。水俣港を背に犠牲になられた方々の魂に手を合わせるひと時は、言葉では言い尽くせない重みと祈りに包まれました。

申し上げるまでもなく水俣病は、工場排水に含まれていたメチル水銀によって



引き起こされた、我が国公害の象徴といえるケースです。原因企業チッソが水俣湾に流した排水により、汚染された魚介類を摂取した多くの住民が苦しみ、命を落とす結果となりました。被害者の方々、そしてそのご家族が背負ってこられた苦しみと悲しみは、今もなお消えることはありません。

式にはご遺族はもとより、浅尾慶一郎環境大臣をはじめ、木村敬熊本県知事、水俣市長、関係自治体、そして小中高生代表らが出席し、それぞれの立場から犠牲者への祈りを捧げました。静かに語られる追悼の言葉、深々と頭を垂れる参列者の姿に、この問題が今なお私たち一人ひとりに問いかけてくるものの大きさを感じずにはいられませんでした。

昨年は被害者団体と環境大臣との懇談の場で、発言中にマイクが切られるという残念な事態もありました。被害者の声に耳を傾けるという基本がないがしろにされたことは、決して繰り返してはなりません。行政がどれだけ制度を整えようと、心からの対話と共感がなければ、真の解決とはいえないのではないのでしょうか。

経済と環境の調和は、決して簡単なテーマではありません。しかし水俣の地から発せられるメッセージは、「いのちの尊さ」を最優先にすべきという明快な教訓を私たちに訴えます。私も経済環境常任委員長として、過去の過ちに学び、持続可能な未来を築くための政策に真摯に取り組む決意を新たにしました。

献花が終わり、閉式直後からしとと雨が降り出しました。それはまるで、犠牲者の無念を伝えるように静かに大地を濡らしているかのようでした。今回、参列したことで人の営みと自然との関係をいま一度見つめ直し、これからの環境政策や産業振興のあり方を深く考える契機となりました。改めて、犠牲となられたすべての皆様のご冥福をお祈り申し上げますとともに、水俣の地に刻まれた記憶が、次の世代へと確かに継がれていくことを心から願ってやみません。



50回忌の法事にて――

過日、母方の祖父の兄にあたる大伯父の50回忌の法事に参列しました。半世紀という時間の重みを思いながら、住職の読経に耳を傾けていると、仏壇の横に掛けられた遺影が目に残りました。モノクロの写真の中の大伯父は、まさに祖父を彷彿させる懐かしさを感じさせる穏やかな表情で、今も変わらず家族を見守ってくれているような気がしました。

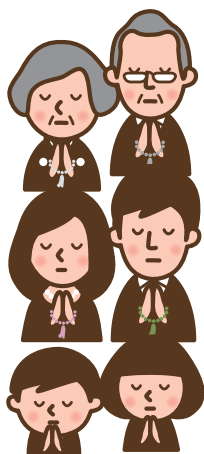
振り返ると祖父が亡くなって既に30有余年が経過しました。祖父にとっての私は長女の子ども、初孫だったこともあり随分と可愛がってもらった記憶があります。その祖父は明治生まれで、当時の男性の多くがそうであったように多くを語らず、真面目で頑固な性分でした。

1940年代、祖父は仕事の関係で今の中国東北部、いわゆる満州で生活を営んでいました。それが8月15日の終戦直後から停戦を受け入れないソ連軍の侵攻、日本軍の撤退により満州全土は無法状態と化しました。祖父はシベリアに抑留され、『終戦』どころか塗炭の苦しみをなめることになりました。私が子どもながらに戦争時のことを尋ねても、祖父は一切口にすることはありませんでした。今から思えば、黙して語らないことが抑留生活の悲惨さを訴えていたように感じます。そうした祖父の人生を思い返す中で、

ふと今年が戦後80年という節目であることに思い至りました。平和と繁栄の礎となってきた戦後秩序は、いま国際社会の中で大きく揺らいでおり、分断や対立、そして価値観や経済の枠組みの再編が進む時代に私たちは立っています。

法事の席で親族と語らい、自身のルーツを実感するなかで、私たちの命や日常は、誰かの努力や思いの積み重ねの上に成り立っていることを改めて感じました。明治、大正、昭和、平成、令和：連綿と続く時代の中で、祖父母も両親も、それぞれの時代を精一杯生き抜いてきた。その歩みの延長線上に今の私があり、気づけば私自身も、次の世代へと『見えないバトン』を渡す番なのだ、と静かに思いを巡らせました。

還暦を過ぎ、これから自分はどうなふう生きていくのだろうか。子どもたちや孫たちへ、どんな姿を見せていけるのだろうか。手を合わせて立ち止まり、感謝し、振り返る機会を持てたことに心からありがたさを感じたひと時でした。



6月県議会定例会で

一般質問をします（予定）

日時・6月17日（火）10時～

今回は、身近な課題から熊本県の未来を左右する大きなテーマまで幅広く取り上げます。

◆農作物を荒らすイノシシ被害への対策（熊本市西区）

◆富合町・仁子川で繁殖する外来水草問題

◆高校教育の無償化、県の対応は？

◆揺れる世界情勢と金利上昇の中、県の財政はどうあるべきか？

皆さんの暮らしに直結する問題です。お出かけいただくか、下のQRコードを読み取って視聴してください！

※なお質問項目は変更することがありますのでご承知おきください。



熊本県議会ホームページ
（インターネット中継から
質問の模様をご覧ください）

高島和男事務所

〒862-0962
熊本市南区田迎 2-17-7

届けます！あなたの思いを県政に
高島和男サポーター募集中です！

TEL.096-288-6004
FAX.096-288-6009

動画を毎月公開しております！
ホームページをぜひご覧ください。

<https://takashima-kazuo.com>

Facebookもやっています！

